

CLOSEUP

# 岩手カ!

事業利用企業紹介

株式会社モディー



K08は、K07同様昨年のジュネーブモーターショーに出品され、また洞爺湖サミットにも出展されたEVスポーツカー。  
(K08は、株式会社KEN OKUYAMA DESIGNのデザインによるものです)

カーデザインという高度に  
洗練された技術を追い求め、  
そこで培ったノウハウを  
新たな商品開発に展開する。

販売で業を起し、生産—技術開発—デザインと、ものづくりの流れを遡ってきた村上商会グループ。デザインから量産までをグループ内で賄える強みを活かし、独自のものづくり領域を確立している。

## ものをつくるデザイナーたち

工業デザイナー・奥山清行がデザインしたクルマをつくった会社、と聞けば、クルマファンならずともその会社の体質がおおよそ想像できようか。

今や世界的に注目される自動車デザイナーの一人、奥山清行のデザインによるスポーツカーがここで開発、昨年のジュネーブ国際モーターショーに出品された。村上竜也社長とは旧知だったと言うが、「猛獣（デザイナー）たちをうまく使って新たなデザインを生み出す猛獣使い」と囁かれる奥山清行からの開発依頼は、村上社長をはじめ、モディー（スタッフ）の創造性や開発力が自動車業界では広く知られていた証と言えよう。

「一流のデザイナーはいいデザインをします。もっと超一流になると、奇抜なデザインを描くけれども、どうやってつくるかという部分の解決方法までちゃんと知って描きます」

世界で超一流と称されるデザイナーたちはだいたいものづくりから入っている。

「デザイナーとして採用しても、うちではまず現場から入ります。塗りも磨き作業もやるし、モデリング、型取り、試作、そして実際にクルマに合わせ込むところまで一連経験してもらおう。自分でつくって、使ってみないとわからないんです。思い込み

でこだわって描いたデザインが、現場でどれだけ大変なのか。ちょっとしたことでコストが何百万円と違ってきます」

見わたせば、社屋の外壁も、事務所のテーブルも、照明も、壁も、みんな会社のデザイナーたちがデザインし、つくったものだという。

「デザイナーにとって大事なことは、本物をたくさん見て目を養うことと、いかに多くのものに手を触れるかです。手の感触による最後のひと撫でがデザインに命を吹き込むんです」

## ものづくりの系譜

ものづくりを重視する体質は、同社の生い立ちに起因する。

モディーを含む村上商会グループの起



社屋全体が社員のデザインによるもの



デザインルームは人間の頭脳とコンピュータとの静の空間

点である村上商會は昭和32年創業。一関市出身の村上圭佑氏（現会長）が東京・目黒でオートバイ部品の販売を始めた。帰郷の折り、金融機関から撤退企業の工場跡地を勧められて取得、ここからものづくりが始まった。日本が高度成長路線を突き進む中、つくれば売れた時代。業容拡大、カー用品量販店向けに部品をつくった。スケールメリットと裏腹に危うい場面にもしばしば遭った。そこから純正部品づくりに方針を転換する。メーカーからの注文ならば経営的に安定するだろうと。しかし、そのぶん技術水準を上げなければならない。そこで開発研究所をつくり、素材や工法の研究を始めた。できないところを外注に頼るのでなく、素材もいじり工法も工夫してものをつくる。より軽く、強く、早く、安く…。飛行機も、ボートもつくってみる。ときには素材メーカーに通常とは異なる配合で材料をつくってもらったり。周囲に外注できるところが無かったという事情もあるが、この時期、社内に本物のものづくり風土が培われ、ノウハウが蓄積された。

こうしていいものができるようになった。ところが今度は「これからはデザインだよ」と言う。そこで設立されたのが株式会社モディーである。



こんなクルマが走り回る時代も近い

## 「岩手」という強み

株式会社モディーの設立には県の高度化資金とふるさと創生資金が投入されている。

「我々の回りには東京を中心にフリーのデザイナーがたくさんいます。しかし、デザインはするけど、ものをつくれぬデザイナーもたくさんいる。その人たちに我々の生産技術、開発技術を使ってもらい、新しい商品開発をしよう」

この考えが受け入れられて有利な制度資金を受けることができた。

目論見通り、会社設立時には首都圏からものづくりを夢見るデザイナーたちがやってきた。やがて所帯を持ち一関に定住した者もいる。社員から県内の教育機関に言わば天上がって技術者を育てていて、その卒業生がまた入社してくるケースもあるという。

カーデザインという高度に洗練された技術が、徐々に岩手の地に根を広がっているのかもしれない。

それにしても、超都会的なカーデザインの拠点をこの地に設立した決断は何だったのか。実は、首都圏のような集積地ではデザイン情報が流出しやすいのだという。遠隔地ゆえの意外な岩手の強みを見た。

## 企業概要

- 設立 1992年1月
- 代表取締役 村上 竜也
- 資本金 9,900万円
- 事業内容  
トランスポートデザインおよびプロダクト製品のデザイン・設計・試作・開発
- 所在地  
一関市字沢297-14  
電話 0191-23-4373
- 従業員数 約250名（グループ全社）
- グループ会社  
株式会社村上商會／株式会社ケイ・エム・アクト／株式会社エム・シー／株式会社オートマジカ／大興工業株式会社

URL <http://www.modi.co.jp/>

今月の表紙／デザインすることはものをつくること。つくって、使ってみて、また作り直しての作業をくり返す。未来のものづくりをデザインする若き精鋭たちの手はいつも何かのカタチに触れている。写真左から、千葉幸喜さん、阿部太郎さん、星宮祐樹さん、岩淵隆太さん、菅原修さん。

### 社長プロフィール／村上 竜也

1964年生まれ。父である創業社長の背を見て育った。事業継承を前に、会社に何が必要かを問うたら即座に「語学とコンピュータ」という返事が返ってきた。まだ自動車メーカーでも部品製造を本格化させていなかった時代、海外市場も視野に入れていた。その先見性に驚かされると言う。以来、職人技の世界を徐々にコンピュータ化し、第二世代を築き上げた。さまざまなものに興味関心を寄せ、次なる夢を追う。

